

事業（会務）報告

1. 会員の状況

2022年3月1日現在の社員（会員）総数は、9,850名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。 注：（ ）内は、2021年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,850名	(9,860名)	-10名
種別内訳：			
一般会員	8,264名	(8,309名)	-45名
評議員	1,021名	(1,002名)	+19名
名誉会員	68名	(67名)	[国内41名(40名) 国外27名(27名)]
功労会員	192名	(188名)	+4名
購読会員	305名	(294名)	+11名

年間会員増減：

(2021年3月1日～2022年2月28日)

⊕ 新入会	350名	(367名)	-17名
⊕ 再入会	2名	(10名)	-8名
△ 退会者	339名	(388名)	-49名

(定款第9条第1号希望退会者 180名，同条第2号による退会者 159名)

2. 2021年度事業報告

1) 総会・学術集会

第65回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 竹内 勤

ライブ配信 2021年4月26日 ～ 4月28日

オンデマンド配信 4月28日 ～ 5月31日

2) 支部学術集会

第31回北海道・東北支部集会	1月15,16日 (ハイブリッド開催)	会長 石井智徳
第31回関東支部集会	12月11日 (会場開催)	会長 門野夕峰
第32回中部支部集会	9月17,18日 (ハイブリッド開催)	会長 小川法良
第30回近畿支部集会	9月4,5日 (WEB開催)	会長 藤本 隆
第32回中国・四国支部集会	12月10,11日 (会場開催)	会長 奥田恭章
第61回九州・沖縄支部集会	3月20,21日 (WEB開催)	会長 大坪秀雄
第62回九州・沖縄支部集会	9月11,12日 (WEB開催)	会長 中村 正

3) 理事会

2021年度定例理事会を5回開催した。主要審議事項は次のとおり。

第1回理事会（4月25日日曜）

定例評議員会・総会承認事項の審議（事業報告、決算・監査報告、予算審議、名誉会員・功労会員・評議員の選任、第68回学会長選出）、第65回学術集会の実施概要、診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラム、リウマチ性疾患患者に生じたCOVID-19に関する研究、男女若手共同参画奨励賞、リウマチ診療ガイドライン2020改定版の発行、各委員会委員長及び委員新理事会および特定委員会のCOI申告書の審査結果、SARS-CoV-2ワクチンに関する研究、2020年度アレルギー情報センター事業、早期RA診断研究推進プログラムの公募概要等

第2回理事会（7月4日日曜）

第66回学術集会予算およびプログラム、MR・MRCRの出版社移行、専門医試験、Preclinical rheumatoid arthritisの和訳、専門医整備基準およびカリキュラムの改定、早期RA研究推進プログラム研究助成の審査委員、リウマチ相談員養成研修会、男女若手共同参画奨励賞、日本骨粗鬆症学会・日本骨代謝学会からの依頼、ヒュミラの「X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎」適用拡大、オーラノフィン錠3mg「サワイ」販売中止、メトトレキサート1mg錠と4mg錠の承認と不採算品再算定等

第3回理事会（8月21日日曜）

第65回学術集会の結果と会計報告、第66回学術集会予算およびプログラム、2020年度専門医試験結果、2021年度教育施設（新規・継続）の認定、専門医整備基準およびカリキュラムの改定、医学用語委員会WGの設置、J-STARのHP作成、APLAR2021優秀演題賞受賞者、パーソナルデバイスをを用いた関節エコーハンズオンウェブ講習、学会賞奨励賞の選考委員、APLAR2020 Revenue and Budget/APLRA2021等

第4回理事会（11月14日日曜）

第66回学術集会（予算/プログラム/ハイブリッド開催詳細）、学会誌（MR/MRCR）出版状況、2021年度専門医試験の実施方法、JCR-EULAR若手リウマチ医トレーニングプログラム2021選考結果、2022年度ACL・中央教育研修会プログラム、アニフロルマブの全例調査への協力依頼、アニフロルマブ全例調査のための手引き、診療ガイドライン（CPG）策定参加資格の判断基準、登録ソノグラファー2021年度申請者、男女若手共同参画奨励賞、PLEASURE-Jの参加施設増加に向けた対策、ICD-11の和訳/リウマチ学用語集の改訂、PMDA臨床医学担当職員募集、支部学術集会予算、APLAR2021 General Assemblyの決定事項等

第5回理事会（1月30日日曜）

第66回学術集会（予算/プログラム/ハイブリッド開催詳細）、第69回（2025年度）学会長推薦、学術集会プログラム担当委員会の改選、2021年度指導医（新規・更新）の認定/新専門医制度/細則の改定、2021年度専門医（更新）の認定、2021年度決算及び2021年度予算案、新名誉会員/新功労会員/新評議員の選出、次世代基礎研究推進プログラム研究助成選出者、JCR2022 ICW Excellent Abstract Award受賞者、ループス腎炎に対するリツキシマブ（遺伝子組換え）使用に関するステートメント、臨

床研究トレーニング合宿/PMDA との人事交流モデル, COVID-19 ワクチン接種後のリウマチ性疾患発症の実態調査, ライフステージに応じた患者支援の権利譲渡, 第 96 回日本整形外科学会学術総会プログラムアンケート, 将来構想委員会の設置, 令和 4 年度診療報酬改定等

4) 学会誌

- (1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR) を年 6 回定期刊行, およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集) を年 1 回刊行した。
- (2) 編集委員 12 名を含む Transmitting Editor 合計 36 名に増員し, 電子投稿査読システム Editorial Manager を活用。投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め, 医学倫理に則り掲載論文の質の向上に努めた。
- (3) 2020 年の Impact Factor (IF) は 3.023 (2019 年は 2.113), 5 年 IF は 2.676 (2019 年は 1.942) であった。
- (4) Modern Rheumatology Case Reports (MRCR) は編集委員 10 名を含む Transmitting Editor 合計 21 名に増員し, 2021 年 7 月に MRCR 5-2, 2022 年 1 月に MRCR 6-1 号を発行, それぞれ 47 編, 36 編の論文を掲載し, 創刊からこれまでに 300 編以上の論文を出版している。
- (5) 出版社の移行作業を進めた。
 - ・ 2021 年 3 月に Oxford University Press (OUP) と 2022 年からの出版契約を締結した。
 - ・ 2021 年 6 月から投稿査読システム (Editorial Manager) を OUP に移管し, OUP での論文受付を開始した。
 - ・ 2022 年 1 月 MR32-1 号を OUP から Online 出版。会員向けの冊子は 1 月 20 日に発行した。

5) 専門医制度

- (1) 「膠原病・リウマチ内科領域専門医検討委員会」を設置し, 日本専門医機構が示す領域単位の新たな専門医名に合わせた「膠原病・リウマチ内科領域研修整備基準」を作成, カリキュラムも一部あらため機構へ提出した。同整備基準は機構の審査を経て 2022 年 4 月から膠原病・リウマチ内科専門医の研修が開始される。
- (2) 2021 年度認定の教育施設として, 新規 13 施設, 更新 164 施設を認定した。結果, 2021 年 9 月 1 日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は 607 施設 (前年比+5 施設) となった。
- (3) 2021 年 1 月に予定していた第 34 回リウマチ専門医資格認定試験は, COVID-19 の影響を鑑み 6 月に延期し, Computer Based Training (CBT) 方式で実施した。受験者は 220 名 (本試験 214 名, 追試験 6 名) で合格者は 178 名 (合格率 80.9%) であった。なお専門医認定日は延期となったことを考慮し 2021 年 3 月 1 日としている。
- (4) 2021 年 3 月 1 日付けで 専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は 4,976 名 (前年比+93 名), 指導医は 1,958 名 (同+104 名) である。特に指導医は 2016 年度の規則改定以降着実に増加している。
- (5) リウマチ専門医研修カリキュラムは, 「膠原病・リウマチ内科領域研修整備基

準」に合わせ修正を加えている。

6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) JCR2021における国際シンポジウムを含む海外演者の講演・座長は事前収録またはリモートでの登壇となった。
- (2) 国際コンカレントワークショップは、Basic/Clinical 関係なく内容別にセッションを振分け、英語音声付きのスライド発表とした。
- (3) 65回学術集会では海外演者を対象とした「Travel Award」を「Overseas Award」に変更して募集したが、応募者は1名にとどまり、応募した1名を受賞者に選出した。
- (4) JCR 会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞 (ICW Excellent Abstract Award) は29題を選出した。
- (5) 「JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム2021」を企画し、長期プログラム1名、短期1名を選出した。
- (6) 8月28～31日に京都で開催された APLAR2021 (竹内勤会長) に向けて APLAR 準備委員会を設置しプログラムの策定に協力した。また APLAR2021 に演題投稿した JCR 会員から APLAR Excellent Abstract Award として20名を選出した。
- (7) 10月21日～23日に開催された第41回韓国リウマチ学会・第15回国際シンポジウム期間中に「KCR-JCR Joint Symposium (Precision medicine in rheumatology)」を開催した。
- (8) 11月3～10日に開催された ACR2021 期間中に JCR セッション「Recent Perspectives on Vasculitis-Related Diseases from Japan」を開催し3名の先生が講演した。

7) 教育研修会等の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として、4月28日～5月31日の間、アニュアルコースレクチャーをオンデマンドで配信し、12月5日に全国中央教育研修会をハイブリッドで開催した。
- (2) 第8回ベーシックリサーチカンファレンスを11月12日、13日にハイブリッドで開催した。特別講演や教育講演のほか、基礎研究推進委員会の若手サブコミッティである「J-STAR-BR」主体で企画した「J-STAR セッション」を設けた。特別講演には小川誠司先生と河岡義裕先生という日本が誇るトップサイエンティストをお招きし、教育講演では基礎研究推進委員会委員による講演を行った。
- (3) 関節超音波講習会は全て中止となったが、WEB開催の実現に向け準備を進めた。なお登録ソノグラファーとして新たに66名を登録し、129名の更新を行った。
- (4) 「2018年度 GSK 医学教育事業助成」による「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を6月13日、9月26日、1月23日の3回全て WEB 開催で実施した。

8) 研究助成事業

- (1) 厚生労働省より「アレルギー情報センター事業」の付託を受け、地域住民等への正しいリウマチ性疾患の知識の普及と啓発を行い、相談体制の確保を図ることを目的に、保健、福祉関係者および医療従事者と対象とした「リウマチ相談員養成研修会」を12月5日にハイブリッドで開催した。

- (2) 早期関節リウマチ (RA) の研究を推進するための研究助成として「早期 RA 研究推進プログラム研究助成」を公募し、応募課題 42 題から 10 題を選出し助成金を支弁した。
- (3) Novartis Pharma Grants for Basic Research 2021 の助成により、リウマチ学、および関連する生命医科学の新展開を切り拓く次世代のリーダーに、その研究の発展を促すことを目的とする「JCR 次世代基礎研究推進プログラム研究助成」を募集し、応募された 15 の研究課題から 3 題を選出し助成金を支弁した。
- (4) ファイザー株式会社と協同で<公募型>医学教育プロジェクト助成である「診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラム」を公募し、応募された 18 施設から 3 施設のプログラムを選出した。

9) COVID-19 に対する対応

- (1) 2020 年 2 月より、COVID-19 に関する情報を随時 HP に掲載した。21 年 1 月からはワクチンに関する情報を掲載し、同年 2 月に「COVID-19 ワクチン接種に関する JCR の見解」を掲載した。
- (2) 2021 年度以降も、堀内孝彦対策本部長ならびに田中良哉情報化委員長のもと、国内外で発出されたワクチンを含む新たな知見や情報、また治療薬に関する情報を学会ホームページに掲載した。
- (3) 情報発信と並行し、堀内孝彦対策本部長を中心に COVID-19 を生じたリウマチ性疾患患者を対象に臨床情報を収集してデータベース化し、病態、重症化リスク因子、予後因子などについて観察研究を行うことを目的とした「リウマチ性疾患患者に生じた COVID-19 に関する研究」を開始した。本年 3 月時点で 388 例のデータが登録されている。
- (4) また「COVID-19 ワクチン調査対策委員会」を立ち上げ、本邦におけるリウマチ性疾患患者においてワクチン接種による原疾患の増悪の有無および副反応の頻度・程度について検討することを目的とした「リウマチ性疾患患者に対する SARS-CoV-2 ワクチンに関する研究」を開始した。本年 3 月時点で 2,941 例のデータが登録されている。

3. 2022 年度事業案

1) 総会・学術集会

- (1) 田中栄会長のもと、2022 年 4 月 25 日(月)～27 日(水)に第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会をハイブリッドで開催する。
- (2) 田中良哉会長のもと、第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (2022 年 4 月 20 日～22 日、福岡コンベンションセンター)の準備を進める。

2) JCR 学会誌

- (1) MR 論文の質の向上と引用の増加を図り、更なる国際的展開を進める。
- (2) 質の高い出版を維持し年 6 号発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け、MR Supplement として年 1 号をオンライン PDF として発行する。
- (4) 国際学会にて MR および MRCR のプロモーション活動を精力的に行い、欧米からの投稿数増加を促す。

- (5) 出版社の変更に伴う電子査読システム等の問題に速やかに対応し、投稿査読工程を安定的に提供する。

3) 専門医制度

- (1) 専門医制度委員会が恒常的に行ってきた指導医の新規認定・資格更新業務、教育研修会の認定業務を引き続き実施する。
- (2) 日本専門医機構が示す新専門医制度への対応を進める。日本専門医機構、日本内科学会や日本整形外科学会等の基本領域学会、内科系関連 subspecialty 15 学会等の他の関連学会との連携を調整し、内科サブスペシヤルティ連絡協議会、内科サブスペシヤルティ審査協議会等へ参画する
- (3) 新専門医制度による研修開始に向け、機構が示す「専門医制度整備基準」に則った研修カリキュラムを整備する。また日本内科学会、日本整形外科学会および日本小児科学会の基本領域、さらには内科系 subspecialty 15 学会と情報の共有と連携を推進していく。
- (4) 膠原病・リウマチ内科領域の整備基準に沿って各種規定、専攻医公募に必要な要件を作成し、研修施設において専攻医公募を実施する。
- (5) 2022 年 4 月からの膠原病・リウマチ内科領域の研修開始に伴い、専門医症例登録システム（リウマチ版 J-OSLER）を稼働する。
- (6) リウマチ専門医試験「例題と解説 第 10 版」を 10 月に刊行する。

4) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 一層の国際化推進のため、学術集会での英語セッション枠を増やしていく。
- (2) 学術集会のハイブリッド化に合わせ、Travel Award の名称を「Overseas Award」へ変更し、海外の若手研究者（45 歳未満）上限 25 名をを第 66 回学術集会に招待する。受賞者のプレゼンテーションは国際コンカレントワークショップで行う。
- (3) 2022 年度 JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラムの募集を行う。
- (4) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者を育成するための国際育成セミナーを開催する。

5) その他

- (1) 今後の JCR の在り方を検討するため将来構想委員会を立ち上げ、機構認定専門医と学会認定専門医の位置付け、会員や委員会を含む組織の在り方、また国際化推進や予算構成などについての検討を行う。
- (2) AI 教育の推進を目指し、「AI 技術が切り拓く新たなリウマチ学に向けた教育シンポジウム」を開催する。
- (3) 学術集会および各支部集会において臨床研究に関するリテラシー向上、臨床研究を担う人材育成を目的としたレクチャーを行う。また第 3 回臨床研究トレーニング合宿を実施する。
- (4) 厚生労働省のリウマチ対策事業として、リウマチ相談員育成事業を継続して行う。
- (5) 「リウマチ性疾患患者に生じた COVID-19 に関する研究」を進めるとともに、COVID-19 ワクチン調査対策委員会において「リウマチ性疾患患者に対する SARS-CoV-2 ワクチンに関する研究」を進める。